

# 文化財ニュース No. 27

発行 加古川市教育委員会

編集 加古川市教育委員会教育指導部文化課 (加古川市加古川町寺家町12-4 TEL (23) - 3845)



的射神事

## 三 十 三 年 の 民 俗 調 査 終 わ る

昭和56年度から3ヵ年にわたり、市内の民俗調査を加古川市民俗資料調査団(代表・玉岡松一郎氏)に委託しすすめてきました。いよいよその調査も大詰めをむかえましたので、これまでの経過をまとめてみることにします。なお、調査内容の詳細は、来年度に刊行を予定している調査報告書に譲ります。

近年、都市化現象がすすむなかで、習慣や生活様式が急速に変貌しており、少し以前の祖先の暮らしの実態が忘れられていく状況にあります。これら忘れられていく、あるいは消えゆく生活文化を記録にとどめ、後世に資料として残すため調査を実施しました。

長い期間地域の風土に根ざし、その地域の人々の社会的関係のなかで生活を営んでいく必要に応じて創造され、工夫改善され、祖先から繰り返して伝えられてきた日常生活そのものが民俗文化であります。集団生活を暗黙のうちに律する規範や精神生活(例えば庶民信仰)など文字やモノで表すことのできない抽象的な文化財であり、その調査には数々の困難

が伴います。

現在の習慣や行事に留意しつつも、より古い文化の型を求めて凡そ50年以前の姿を明らかにすることを目標にしました。そのため、文化の伝承者たる土地の古老に面談し、若かりし日々のことをいろいろとお尋ねしました。この間、今回の調査がもつ意義を十分理解され、貴重な時間を割いていただいた方々に改めてお礼申し上げます。

さて、昭和56年度に最初の調査として、市内にどのような民間の行事が残っているかをアンケートしてまとめました。この結果、予想外に多くの行事、例えばトンドやオトウなどが残存しており、調査員はこの回答を基に現地調査を開始しました。さらに、単墓制か両墓制かを中心とする墓制のアンケート調査を行ないました。

昭和57年度には、老人会の皆さんにご協力をお願いして、ふるさとの民謡(仕事歌、婚礼歌、わらべ歌)や、オトウの内容について回答をいただきました。併せて103項目にわたる方言調査表に記入いた

できました。

これらの調査データ自体価値が高いのですが、民俗調査の基本は微に入り細をうがった項目について、伝承者にお話をしていただくことであり、行事を実地に見学するというににあります。ところが、例えば秋祭りが10月10日や10月の第2日曜日に、オトウが1月15日というように特定の日に行事が集中しているため、未調査の行事がかなり残りました。今後も継続して調査ができる体制を整えたいと考えております。さて、オトウとは何かであります。滋賀県や奈良県下に濃厚に伝承されている「宮座」に類似した神事集団で、播磨地方ことに加古川市内に色濃く分布しています。

トウヤという組織の構成員の中からトウニンが選ばれ（これもトウヤとよぶところもある）、1年間神事全般を遂行します。このトウニンの交代儀式がトウワタシであり、通常これがオトウと呼ばれています。トウワタシはトウヤが参列した中で、新旧トウニンの受け渡しを象徴する盃事が厳粛な雰囲気の中でとり行なわれ、のち神人共食の名残りをとどめる直会(宴会)が

あり、最後に千秋楽の謡があるのが一般的なようです。

このたびの調査では、志方町西中および野口町野口と長砂のオトウを地元の方々のご協力を得て、ビデオテープにおさめ保存することにしました。オトウで特筆すべきものに、加古川町大野の日岡神社の氏子村のトウニンがあります。この神社のイミゴモリは、京都府下祝園や岩倉とともに全国的に有名な行事ですが、祭りにおけるトウニンの役割もまた重大であります。イミゴモリが明けた日、前のトウニンからトウワタシで任務を引き継ぎ、早速的射神事に臨みます（1ページの写真）。的の裏に「鬼」と書かれてあり、本来悪魔払いの性格を有する行事であったと考えられます。秋祭りが近づくと、トウニン宅にオダグが築かれ幟が立てられます。祭り当日には華麗に行列を整え、トウニンは白の神主装束で乗馬して神社へ上ります。

このほか、市内には地域の方々の努力により数多くの貴重な文化遺産が伝承されていますので、見聞されることをおすすめします。

## 発掘調査 1

### 溝之口遺跡 第1次 第2次

加古川が形成した低地平野部は、豊かな大地でもありました。そのためここに定住し国造りを始めた弥生人たちの集落が市内各所に残っています。西から著名な遺跡としては、砂部・溝之口・平野・大中等があります。なかでも溝之口遺跡は、市内だけでなく東播磨地域の弥生時代の指標となる遺跡です。

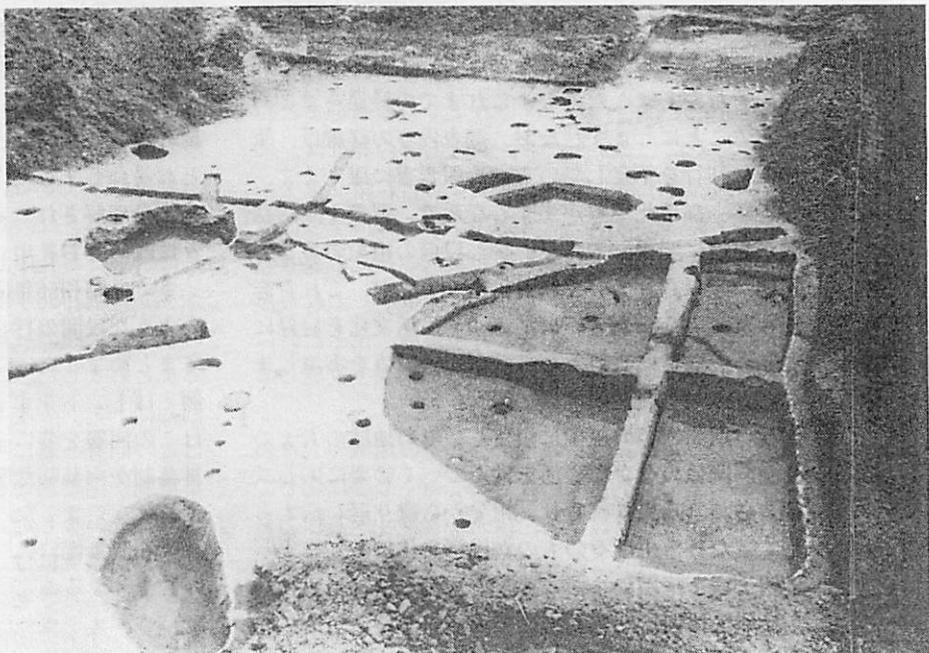
溝之口遺跡は弥生時代中期～後期へと続く集落跡で、今までに何回か発掘調査が実施されてきましたがここに紹介するのは昨年8月と12月～3月に調査をした概略です。

調査地からは弥生時代中期(1世紀末)の溝が2本、竪穴住居2棟と、貯蔵用穴から大形壺が出土しました。

今回の調査で注目されるのは、古墳～奈良時代の遺構が発見できたことです。

古墳時代後期(6世紀末)の竪穴住居2棟と倉庫2棟、この上層に奈良時代後期(8世紀)の高床住居8棟が建っていました。また複弁軒丸瓦も出土し溝之口廃寺も遺跡北方に想定されるようになったことなどです。

調査は遺跡の一部ではありましたが、ここ溝之口遺跡は奈良時代まで続いた大規模な集落であったことが判明しつつあります。



発掘調査 2

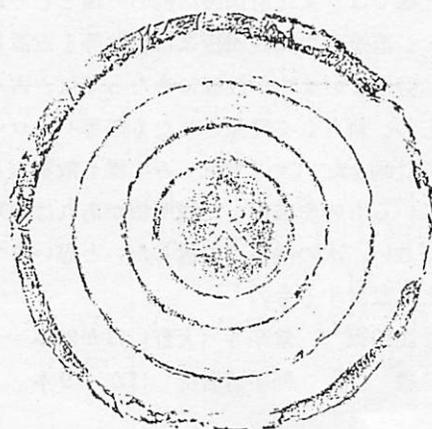
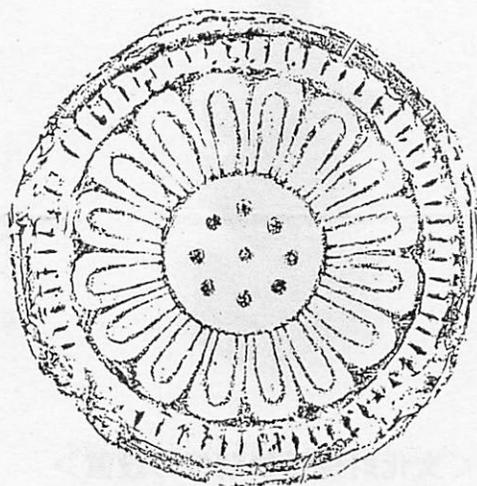
石守 廃 寺

神野町石守に所在するこの廃寺跡は、出土する古瓦等から白鳳時代（奈良時代前期）の創建といわれ、遺構としては巨大な塔の心礎が残っている程度でした。

市教委では、不明だった伽藍配置・創建時代等を明らかにするため、昭和58・59年の2ヵ年にわたり、国・県の補助を得て発掘調査を始めました。

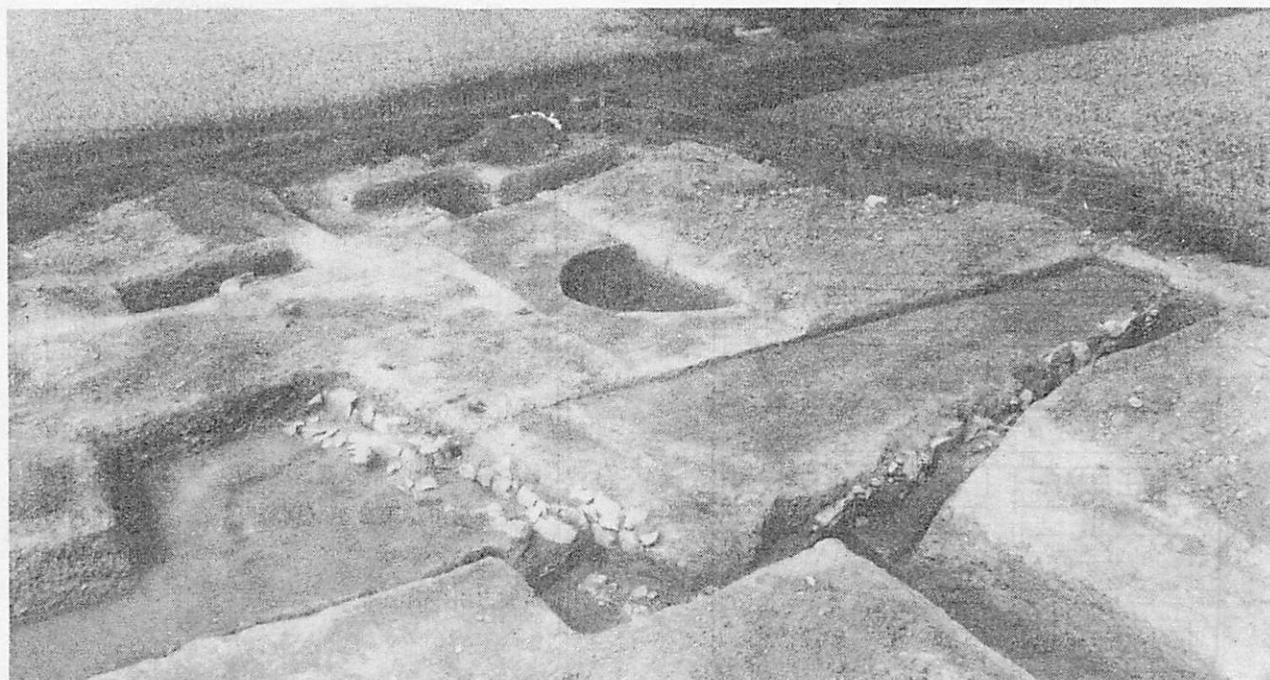
58年度調査は昨年8月下旬から10月中旬にかけて実施しましたが調査の結果、正方形の基壇（1辺11m）をもつ塔跡とその中央に塔の心礎を置いた穴を検出しました。基壇高は約70cmあり、基壇外粧には凝灰岩質の石を用いていました。又塔より少し東方に建物跡が認められ、金堂跡と推定されますがそれらについては、来年度の調査で解明したいと思います。

出土遺物としては、風鐸（相輪部の九輪に付く）5点・水煙・飾金具・釘・軒丸瓦などがあり、これらの遺物から、創建時期は、奈良時代後期初頭（あるいはすこし前）で、平安時代初まで続いた寺院であったことが推定されます。



出土軒丸瓦（上単弁16葉文・下重圏文）

塔 の 全 景





野口町古大内墓地内  
五輪塔修理される

野口町古大内墓地内の五輪塔が、かねてより五輪がばらばらに散失して五輪塔としての形態を整えていなかったのですが、このほどシーサイド・ライオンズクラブの積極的な奉仕活動により又もとの姿に積立てられました。厚く感謝の意を表します。

《文化財保護説明板の設置》

文化課では、文化財保護活動の一環として毎年遺跡・石造遺品等に説明板又は標柱等を設置して保存に努めています。設置にあたっては、古くなったもの、新らしく発見されたもの等パトロールをして計画をたてていますが、みな様も散策のとき倒れているものや破損した説明板があればお知らせください。次の機会に設置したいと思います。

ことし設置するもの

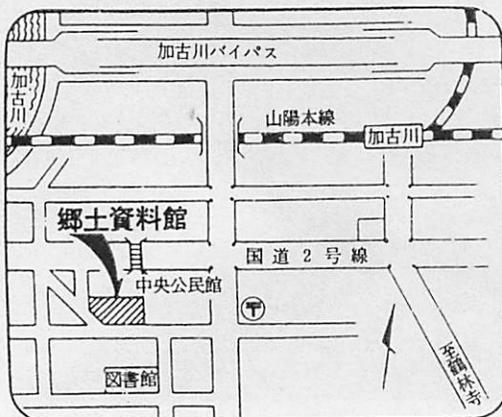
説明板 常楽寺(大野)ほか25本  
標柱 稲屋構居址 ほか 9本

《資料館収蔵品寄贈者名》 (敬称略)

小原 信 男	志方町西山
萩原 正 良	三木市別所町
織野 久 雄	加古川町木村
内海 十 郎	志方町西牧
中沢 武 治	米田町船頭
大西 昭 二	尾上町口里
芹 生 明	加古川町平野
長谷川 松 次	東神吉町西井ノ口
大西 美保子	上荘町見土呂
三宅 祝 次	野口町野口
中尾 俊 一	野口町北野
川崎 喜 弘	神野町西条
岸本 幾 哉	平荘町警
米田 徳 男	加古川町美乃利
青山 良 光	東神吉町砂部
堀田 忠 良	西神吉町鼎
(株)別府鉄道	別府町石町

《郷土資料館》

開館日 毎週月曜日 ~ 土曜日  
(祝日及び年末・年始を除く)  
午前10時 ~ 午後4時  
(但し、土曜日は12時まで)  
展示内容 民俗資料(2階)および考古資料(3階)  
場 所 中央公民館南隣 文化課内  
TEL ②3-3845・3846



頒布図書

文化財調査報告書	中 山	1,000円
"	岸	200円
"	広尾東	500円
"	山ノ上	200円
"	砂 部	1,500円
"	東 中	1,200円
埋蔵文化財調査集報 1		500円
加古川市誌第2巻(別府町)		5,000円
文化財めぐり		400円
加古川の昔と今		700円